

キリストとマルクス

田中 最後に大平さんの処世観、人生観というようなことを中心にお尋ねしたい。大平さんは、大へんな読書家ということで、いろいろな本をお読みになっておられるようですけれど、精神形成に非常に影響があった本として、今まで読んだ本の中では、どのようなものがありましたでしょうか。また現在お読みになっている本で、これはというようなものがございましたら、お聞きしたいのですが。

大平 若いときに聖書を読んだんです。聖書というのは、やはり私に影響を与えた最高の本でしょうね。あの本は宗教的な意味というよりは、イエス・キリストという人をめぐる人間絵巻です。だから師弟の関係、主従の関係、権力と非権力の関係、それから目に見えるものと、目に見えないものとをどう考えるかとか、そういう一つの壮大なストーリーです。そういう中で、やはり聖書は教育の書じゃないけれど、事実を通じていろいろ考えさせられるものがある。だからこそ、いつまでも永遠の生命力があるんじゃないですか。

田中 学生時代はどんな本を読みましたか。

大平 雑学でした。手当たり次第。

田中 文学書などはどうです。どちらかというと、あまりお読みになりませんか。

大平 あまり読みませんね。まあ森鷗外とか、夏目漱石のものは読みましたけれども、若い時に。

田中 経済学の方はどうですか。

大平 経済学はあまり読んでいません。

田中 しかし一橋大学の時代は、どこかのゼミナールに属していましたね。

大平 ゼミナールは経済学史です。

田中 誰のゼミナールに属していましたか。

大平 上田辰之助という、中世の経済学史の先生です。

田中 中世経済学史というと、たとえばトーマス・アキナスのものなんかですか。

大平 上田先生はトーマス・アキナスの原典に即した研究者でした。ゼミナールでは、R・H・トナーを勉強しました。

田中 経済思想史でしようね。学説史とか思想史でしよう。

大平 そうです。近代経済学ではありません。

田中 大平さんの学生時代は、マルキシズムも盛んだったと思うのですが、その影響は受けませんでしたか。

大平 マルキシズムの影響は受けなかったです。

田中 それはどういうわけですか。当時はマルキシズムの風潮があったと思うんですけれど。

大平 私には性が合わなかった。

田中 性が合わないということを読まなかった。

大平 マルキシズムの講義はあった。講義はあったけれど、私はいかなかった。

田中 選択しなかったんですね。それはどういう理由ですか。

大平 いや、いく気持ちにならなかった。

田中 マルキシズムの階級対立思想に反撥したわけですか。もっとも聖書思想とは違いますね。

大平 そういうものは、はじめから興味がなかった。私はそのかわり宗教に入ったからね。宗教で若い頃の渴きを癒そうとしたわけです。マルキシズムを必要としなかったわけです。

田中 その点は現在プラスと思っていますか、マイナスですか。

大平 マルクスよりキリストの方が偉いもの。

田中 なるほどね、これは大事な点ですね。

友人・田中角栄

田中 友人関係はどうですか。学生時代、それから大蔵省時代、政治家になられても大勢友人はおられるでしょうが、友達について語って下さい。

大平 友人は大勢おります。

田中 友人関係で一番大事な点というのはどういう点でしょうか。ある時には親しくなるし、またある時には思いもかけないことで対立し、離れるというようなこともあるでしょうけれど。人間関係、特に友人関係の要諦のようなものは、どういう点に

ありますか。

大平 うん、要諦というほどではないけれど、好きな友達というのは、変わらない友情を持ち続けていくことが大事で、そういうふうに使っています。

田中 なるほどやはり学生時代の友人というのはかなり親しいでしょう、今でも。

大平 そうですね。

田中 たとえば田中元総理ですね。大平さんは田中さんと非常に親しいといわれませんが、友人としての田中角栄論、これを何かしゃべっていただけませんか。

大平 田中君とのつき合いは、政界へ入ってからで、いわば個人的なことではないんです。党の仕事とか、政府の仕事とかを通じて、相談し合う友人で、私的な相談はなかった。そういう仕事を通じて知った彼は、非常に多彩な能力を持ち、鋭敏な感覚を持つ、大へん魅力のある人です。そういう意味で私が持っていないものを豊富に持っています。私にとっては大へん魅力のある人です。

田中 今、大平さんは「自分が持っていないものを田中さんは持っている」と言われたけれど、その点をもう少し具体的に言うとは何ですか。

たとえば教育の点で、田中さんはいわゆる正規の大学教育を受けていない。そういう意味で精神形成期において大平さんとは違った環境にあつた。要するに、俗な言葉で言うと、いわゆる大学出のインテリではない。そこがまた一つ、マイナスの面もあるとは思いますが、同時に大学出のインテリにない別の魅力というか、そのようなものがあるんですか。

大平 田中君はわれわれと異つて、まあ法科とか、経済科とか、工科とかいう既存の制度に捉われない、非常に創造的な、実践哲学というか、そういうものを持っている人です。だから、何ものにも捉われないわけです。そういう意味では私は、教育論になるけれど、小学校を出ただけの人が一番えらいと思うよ。つまり何ものにも捉われないから。

田中 捉われないという意味ではですね。大学などにいくと、かえつて専門的な質問に捉われて、精神的、知的な片端になるといふことですか。

大平 だんだんと上がつて、大学までいくと、わざわざ人間の頭を片端にしてしまう仕組みになつていく。

田中 狭くしてしまつ。法学部とか、経済学部とかいう垣根を作つて。(笑)

大平 た例えば、大学出身者は、何か問題があると「これは俺の専門じゃない」と言う。

田中 米国あたりはとくにそうでしょうが、日本でもそういうことを言います。

大平 大学を下手にでると、そういうことになってしまう。学問の世界は本来、一つであるはずなのに。

田中 便宜上、分類的に分けただけのことなんですけれどね。

大平 そういうことが、田中君にはない。だから彼は、技術者でもあるし、エコノミストでもある。それからデプロマートでもあるし、教育家でもある。そういうものを兼ね備えているように思います。それで区別をしないんじゃないかな。だからもう大学なんかいかない方がよい。大学へいって片端になるよりはね。(笑)それでも大学へいく以上は、再び総合を考えていくようにしなければならぬ。だから、大学は大きくいって哲学とか、物理学とか、そういうようなものを教えるところであつて、あんまり細かい専門的なことは教えない方がよいと考えています。

田中 ケンブリッジやオックスフォードなどはそうですね。リベラルアートが中心です。

大平 日本の大学教育は、あんまり細かいところに分かれすぎておる。

一 橋大学は文化財

田中 ところで、大学の話が出たんですが、母校の一橋大学論というのをお聞かせ願いたいんですが。母校のことですから懐かしいところもありましょうし、また嫌な点もあるでしょうが。

大平 そうですね、一橋大学はこれまたユニークな一つの学園です。学生は少ないが、歴史は古しいし、社会科学では相当の水準を持った大学だと思えます。大へん面白いのは、実業界ばかりじゃなく、いろんな方面に人間を送り出していることです。教育界、官界、それから作家もいるし、陶工や絵書きが出たり、何か非常に面白いところがある。宗教家も出ています。どこの学校でも多少そういう風変わりな人がいるけ

れど、一橋は比較的リベラルな雰囲気があると看做す。

それから同窓生、つまり一橋ファミリーというのは、比較的強い結束を持っている。

田中 数が少ないですからね。如水会をみても団結心は強い。

大平 東大などは、一つの大きな社会のようなものですが、一橋の方は、こじんまりした一つのファミリー的なものです。それぞれ長短はいろいろありますが、私はいくつこの個人的な学校も、一つあっていいんじゃないかと思っています。日本の文化財の一つとして、そして、その存在がほかを啓発するところがあれば、これはまた大いに存在理由があるんじゃないかなと思うている。どこの社会でもいろんな学校の人が入ってきて、それぞれの特徴というか、それぞれの文化を少しずつ持ち込んでいくから、それでその社会は豊かになる。そういう意味では一橋という学校も、一つのユニークな文化財じゃないかというような感じがしております。私はあの学校へ行って、よかったと思っています。

田中 一橋ははじめから第一志望だったわけですか。最初から選ばれたのですか。

大平 いや、そうではなくて、私は高松の高等商業へいったんですが、まあ、そこ
でとどまるところを大学に進むことになったんです。高等商業出身ですから、進学す
るとなると、あそこへいく道しかなかったわけです。

田中 一橋出身者は同窓の面倒をよくみますね。

大平 私は先輩諸兄に大へん助けられました。それでなければ、なかなか今日の地
位もなかったでしょう。そういう意味ではありがたい母校です。ただ、一橋からはい
ただくばかりで、あんまり奉仕していませんが。(笑)

田中 一橋が出たので、それと対比して東大論を聞かせて下さい。

大平 東大はいわば大きな一つの社会です。それから相当リベラルな世界で、あん
まり偏狭ではないように思います。社会の指導的な学園として東大をもったことを日
本は非常に幸せだと思っている。リベラルな大学として、それぞれの分野で、それぞ
れ指導的な立場を持ちながらも、しかも他の学園に対しても、それぞれの場を与えな
がら、日本の社会の形成を、あまり無理なく指導してきています。そういう点は、私
は立派なもんだと思います。

田中 東大の評価は高いですね。先ほど大平さんは、一橋大学はいろいろな人材を各界に出してきたと言われましたが、総理大臣だけはまだ出してない。財界、政界に大勢の人材を出していますけれども、不思議なことに総理というのは、まだ出ていません。総理は慶応からも出ている。早稲田からも出ている。明治からも出ていますけれど、一橋はまだ誰も出ていない。

大平 アア ウー……。